

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 6 年度第 1 回高松市男女共同参画推進懇談会
開催日時	令和 6 年 1 0 月 2 日(火) 1 4 時 3 0 分～1 6 時
開催場所	高松市防災合同庁舎 3 階 3 0 1 会議室
議 題	(1) 会長・副会長選任について (2) 令和 5 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実績報告について (3) 令和 6 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実施計画について (4) 「第 5 次たかまつ男女共同参画プラン」の令和 5 年度における進捗状況について (5) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	黒澤会長、原田副会長、犬伏委員、今橋委員、植村委員、香西委員、高橋委員、谷川委員、徳倉委員、中村（香）委員、中村（修）委員、仁賀委員、橋本委員
傍 聴 者	0 人（定員 5 人）
担当課 及び 連絡先	人権・男女共同参画推進課（839－2292）

会議経過及び会議結果

（ 1 ） 会長・副会長選任について

高松市男女共同参画推進懇談会設置要綱第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。

会長 黒澤 あずさ 氏 副会長 原田 さとみ 氏

（ 2 ） 令和 5 年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実績報告について

（事務局説明）

(3) 令和6年度「たかまつ女性活躍促進事業」の実施計画について

(事務局説明)

(4) 「第5次たかまつ男女共同参画プラン」の令和5年度における進捗状況について

(事務局説明)

【会長】

事前質問等がある場合は事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

【委員】

LGBTの理解が目標値に及ばなかったということについてだが、今回の資料を見たとき、LGBT当事者の方が、「男女が高いに理解し合う社会づくり」「男女が共に」などの表現を、自分はどこにも当てはまらない、取り残されている気分になると感じた。表現の難しさや、女性差別の歴史がある中、女性の活躍をもっとという指針が大事だとは思いますが、「誰もが」というところで、そこで取り残されているLGBT当事者がいるのではないかと感じている。特に最近は、LGBTに当たらないQの方が増加している。アセクシャル、Xジェンダー、ノンバイナリーの方など、私は当てはまらないと感じる方がいると思った。

言葉の表現はもちろん、男女共同参画推進懇談会の名前からしてそうだが、そういうところから工夫していくということが、1つLGBTの理解というところに、大元のところから、誰も取り残されない誰もが自分らしく生きられるということに繋がるのではないかと感じた。

もう一つ、女性の活躍促進企業の表彰というものがあったが、LGBTフレンドリーという言葉がある。制服の規制や更衣室が男女2種類しかない、というのではなく、一人で着替えられる場所が用意できるとか、自分らしい服装で働けるといったことを条件として打ち出している企業というのが、高松市内にたくさんできると、会社の中でストレスに晒されている方はとても救われると感じるので、そういうところにも目を向けて

ほしい。

後一点、こころのつながりタイムのことだが、最近、子ども食堂など、様々な活動の中で出会っていく方々の中で、意外と取り残されているのが男性の悩みである。悩みを言ってはいけないというような、男性特有のもともとの性質があり、誰にも悩みを言えず自殺率も高くなってしまう。女性は意外と仲間同士でおしゃべりをして解消できる部分もある。特に家庭によっては、女性から男性へのモラハラとかパワハラとか暴力というのも聞いている。そういった男性への支援だったり、人の輪というところでも、シングルマザーという言葉になっているところもあったが、ひとり親という言葉を使うなど徹底して、男性も女性もＬＧＢＴ当事者も共に参画できるような高松市になればと、全体を通して感じた。

【会長】

その他、意見はないか。

【委員】

広報高松の件について、もう少し働きかけが欲しいと思っている。広報への男女共同参画週間について、毎年、特集記事を設けることが難しいのが現状ということであるが、広く市民一般に知らせる機会として、全戸配布の広報高松というのは、とても重要な場だと思っている。男女共同参画週間についての特集は、分かりやすい記事を作り、家族で読めるような、子どもに分かるような内容での特集をぜひお願いしたい。今年の６月は世界禁煙デーという特集ページが紙面として占められていた。男女共同参画の方が弱いのかなと印象を持った。健康上の記事は他にも出ていたが、男女共同参画週間の特集はぜひお願いしたい。紙媒体の広報は高齢の方に、ホームページ・SNSであると、若い世代にアピールできると思うので、両方活用して認識を広めてほしい。引き続きの働きかけをお願いしたい。

【委員】

資料１のたかまつ女性活躍促進事業実施報告の中で、事業実績で参加した男性女性の比率が分かれば教えてほしい。

【事務局】

今、手元にアンケートが無いため、確認しなければ不明である。

【委員】

女性の意見というのが多いと思うが、男性はそういう場にいる方が積極的に参画できるかなと思うので、働きかけをお願いしたい。

【委員】

この事業の関係者のため先程の質問について回答する。基本的に、LGBTQの話もあり、募集要項では性別は聞いていない。特に会社に対するアプローチであるので、総務人事担当者、中小企業になると、比較的女性の割合が多い。正確に把握はしていないが、7割位が人事・総務の担当で、来るのは女性の方が多い印象がある。会社の数よりも人数の方が多いのは、そこに経営者の方や営業本部長も一緒に、一社で複数名参加しているというケースがあるためである。我々もアプローチする際、経営者の方とか決定権者、男性の方もぜひということ声を掛けしているため、一般的な男女共同参画のセミナーの中では、男性の割合は多いセミナーになっているかと思う。

大学向けのワークショップは、法学部の学生に向けて実施した。法学部の学生が聞きたい系統の企業のオーダーを受け、高松市と協議して企業選定をしている。公務員志望の方も比較的多く、割と男女分け隔てなく、半々くらいのイメージである。

【委員】

男性が聞いてくれると、より活発になると思うので、ぜひお願いしたい。

【委員】

国の方で、防災についてピックアップされている。県や市の担当部署の職員の女性割合について、非常に気にしている。能登の水害があったが、1月の地震のときに、担当部署の担当が全て男性だったため、東日本大震災の後に起こった女性に対する暴力だとかを防ぐための様々な冊子、プランというのを作成していたのが実行できなかったということがあり、国は非常に危機感を持っていて、各自治体に対して、女性職員がきちんと配置されているか、万が一のときに出勤できる体制になっているのかということに気をしている。この点は非常に大事なポイントであり、今すぐに人事異動ができるかどうかとなると、この会の中だけの話ではないが、男女の割合だとか、専門性がある人達の割合というところも、通常の委員会の比率だけではない。

く、その辺りのバランスを配慮してほしい。

【委員】

待機児童の問題について、保育施設等の実績を見ると、評価はAだが待機児童数は12人という数字が出ているが、どの期間の数字なのか。実感としては少ないと感じるが、2歳になっても入れないという方もいたりする。また、放課後児童クラブの待機児童数でもある。保育施設等の待機児童数も含めて、高松市だけの問題ではなく、全国的に起こっている。女性活躍というテーマでいくと、仕事が好きで頑張って働きたいと思っている方が、子育てというところで、現状どうしても女性が役割を担っている。93人という結果が出ているが、また別の形ででも、取り組めることを検討してほしい。

【事務局】

待機児童数は、4月1日現在での数値で報告を受けている。待機児童はゼロを目指しているが、様々な事情等があり、現状、発生していると考えられる。放課後児童クラブについても、同じだと思うが、今、民間委託をする等のほか、学校の規模により受け皿の確保等に努めていると思う。運営補助等も進めていたかと思うので、担当部署へも待機児童の解消に向けて取り組んでもらうよう伝える。

【アドバイザー】

審議会等における女性委員の割合の部分の、今後の対応についてだが、そもそも団体に推薦を依頼しても、団体に女性が少ないから、そのポストに就く女性がいらないから、割合が低いということだが、そもそもそのポストに充てなきゃいけないのか。そのポストに就いていなくとも、その役割を担える方が団体の中にいるのではないか。それぞれの審議会の目的があり、非常に困難なところはあると思うが、積極的に数値が上がるように取組をしてほしい。

女性の活躍というところだけに着目すると、女性の活躍が進むためには、単に仕事のキャリアを伸ばすだけではなく、仕事や家庭、育児や介護との両立をできる環境を同時に進めていき、女性活躍キャリアを伸ばすこと。この車の両輪が二つ同時に回らなければ上手く進まない。男女の固定的役割分担意識の払拭を見直していかなければ、社会が成り立たないと思う。様々な広報媒体を活用し、その旨も発信すべき。

【副会長】

この懇談会が形骸化的な立ち位置にならないよう、委員から高松市に案を出すべきである。今回も、高松市の中でも様々なことに取り組んでいるが全て縦割りになっている。子ども、介護の問題等全てが絡んでおり、その中核になるのが女性活躍だと思う。子育て世代の女性にも安心感を伝えられるようになれば、女性活躍推進は成り立たないと思う。

【会長】

施策にも反映できるようなヒントをまとめていければと思う。ジェンダーの問題は様々な部署に跨っている。SDGsの17の目標の中でも、ジェンダー平等はどれにも関わる大きな柱と言える。様々な立場から委員の意見を聞き、考えていける場にしたい。

【会長】

他に、質問事項等はないか。

【委員】

資料3-1について、女性が働きやすいというところで子育て支援が上がっている。多様な選択を可能にする、育児介護の支援基盤の整備とある中で、地域子育て支援拠点が著しく成長した。その中で新たな課題と思うのが、不登校児童の支援である。例えば、不登校について父親も学ぶ場面を作ってもらいたい。

【会長】

事務局の方から何かあるか。

【事務局】

女性活躍、LGBT、その他待機児童の関係を含め、様々な御意見を頂いた。行政の役割として、縦割りということがあったが、横や斜めに連携を取りながら支援に取り組んでまいりたい。男女共同参画、女性活躍という視点は様々な施策とも関わりながら取り組んでいくことのできる内容であると思う。関係各課と連携を取りながら、進めてまいりたい。

(5) その他

次回開始予定について。

(閉会)